

「第 35 回室蘭市都市計画審議会」議事録

1. 開催日時 平成 29 年 7 月 3 日(金)14:00～15:20
2. 開催場所 室蘭市役所2階 大会議室
3. 出席者 委員:市村 恒士、土倉 崇、堤 良子、濱中 實、早川 昇三、
真境名 達哉、三村 紀子、森川 卓也、山中 正尚
市側:(市長)青山 剛 (都市建設部長)佐藤 肇
(都市政策課長)佐野 正樹 (都市政策課主幹)佐藤 一徳
(都市政策課主幹)佐々木 裕司 (都市政策課都市政策係長)村井 幹男
(同主任)北村 祐貴 (同主任)門澤 秀斗 (同主任)及川 祐一
4. 報告案件 室蘭市都市計画マスタープラン見直し及び室蘭市立地適正化計画について
5. 傍聴者 報道関係者 2 名

■会長・副会長の選出

- ・会長 市村 恒士委員
- ・副会長 森川 卓也委員

■都市計画審議会について

- ・資料1にて事務局より概要の説明

■室蘭市都市計画マスタープラン見直し及び、室蘭市立地適正化計画について

- ・資料 2 にて事務局より概要の説明

■策定協議会について

- ・資料 3 にて事務局より概要の説明

< 質疑応答 >

●市村会長

なかなか複雑な説明が多かったと思うが、国交省の HP から立地適正化計画の策定の手引きが見れるので、参考にすると良いかもしれない。実際、インパクトのある政策であり、コンパクトとネットワークという新しいまちづくりの考え方で、産業と連携できたり、上手く使っていけば面白い計画になると感じている。前回の都市マスを作ったときは、10 万とか 15 万人とかを想定した計画だったのかと思うが、今回の人口推移についても、国の指標を使っているのなら、出生率 2.0 になっていて、実際にはもっと人口が少ない結果になるかもしれない。10 年後、20 年後の室蘭を考える計画を、2 年間と限られた期間で作ることになる。よって、出来るだけ都市計画審議会で協議を行っていくが、策定協議会を設置して、出来るだけ具体

的な議論を深めたうえで、この審議会に報告するという提案をされたとのこと。

●森川委員

コンパクトシティを進めている都市が多いとのこと、先日テレビ等で見たのだが、上手くいっていない都市も多いとのこと。これから我々が取組んでいくにあたり、このような重要な計画なので、市民の理解度を深めていかなければならないと思う。今聞いても、難しい内容が多いと感じるので、市民意識へどのように浸透させるのか、工夫しなければならぬと思う。それから、これから10年、20年後は室蘭の人口がどんどん減っていく中で、どのようにまちづくりを進めていくべきかを考える計画とのことなので、真剣に考えていけない。この計画に関しては、かなりの反発も出てくることが予想されるが、そういったことも踏まえて、私もしっかり勉強していきたいと思う。

●事務局

今の計画の進捗状況としては、まちの人口分析や課題抽出など、様々な分析をしているところである。この分析結果と、7月末に行う市民アンケートの結果を踏まえて、現状のまちの状況、これから作成する計画の概要をまとめて、各地域にお住いの皆様にご説明に伺う予定だ。市民に、これからのまちづくりを考えてもらう計画となるので、丁寧な説明をしていかなければならないと考えている。

●山中委員

社会福祉の立場からお話ししたい。P5の高齢化率が2015年で34%とあるが、実は、福祉業界の調査では、2016年に36.1%という値という数値が出ている。25年後、このままの推移では進まない可能性があるのではないかと。どのように判断しているのか意見を伺いたい。

●事務局

人口減少と、高齢化率については、国立社会保障・人口問題研究所の人口予測数値を使っているので、一律な数値となっているかもしれない。実際には委員がお話するように、高齢化率ももっと増えるかもしれないが、この計画を作るには、国立社会保障・人口問題研究所の数値を使うように決められているので、まずは、この数値をベースに検討していきたいと考えている。

●山中委員

この数値を使わなければならないのは分かったが、この数値を市民に公表した際、我々が示している数値と違う為、意見等が出てくる可能性がある。また、実態の数値が別に出ているため、その数値を使っていかなければ、理解を得られないのではないかと。国の方針はこうだが、実態はこうなっているというような表現も必要なのではないかと。

●真境名委員

それについては、私も気になって調べたのだが、高齢化率の日本の平均は 2015 年には 35%、2040 年には 27%、2050 年には日本で一番高齢化率が高くなる。その後、どんどん高くなるかというところではなくて、その後は、一定の値を推移する。一般的には、室蘭のように、今高齢化率が高いところは、その推移が早く来るので、伸び率はこの程度になるかもしれない。数値は捉え方で変わるものなので、最悪の場合の数値もしっかり押さえておかなければならないと思う。

●山中委員

P7の人口密度だが、単純に行政面積を考えるとこの数値にならないが、何か計算方法があるのか。

●事務局

この数値については、単純に行政面積から割りかえたものではなくて、都市計画の中で可住地、非可住地という考え方があり、可住地で計算するとこの数値になるという事。よって、全体の数値より低い数値になる。

●山中委員

コンパクトシティを進めることは良いことだと思うが、都市計画マスタープランを見直すに当たり、今までの成果や課題点を整理する必要があると思う。これは意見なので、検討していただければありがたい。

また、市の政策の中で、空家対策等に関してはコンパクトシティの考えと離れた部分が対象となっているように感じる。この計画に沿って、市の考えも改めていく必要があるのではないか。

●真境名委員

先ほど森田委員から、コンパクトシティでうまくいってない都市があるとの話があったが、上手くいっていないというのは、お金をつぎ込んで成果が出ていないと、失敗と言われてしまう。なので、室蘭市がどのくらいお金をかけるのかによって、周りの捉え方も変わってくるのだと思う。成功だとか、失敗だとかという評価をどこにおくのか、何をやればいいのか、難しいところだと感じている。

●森川委員

交通の話があったが、室蘭 - 東室蘭間の JR の存続問題も今後出てくると思う。今回の計画を作った場合も、その辺も検討しておかなければいけないと思う。先ほどの資料で、中央町の未来も無いような数値になっている。こちらもしっかり考えていかないと、室蘭 - 東室蘭間の JR が存続していけないと思う。せっかく作った計画が、5年後10年後全然違って、おかしくならないようにやっていかなければいけないと思う。

●早川委員

都市計画マスタープランの見直しについては、各地区に行って説明し、伊達、登別の意見も踏まえて計画を見直すとの事だが、この立地適正化計画についても、都市機能誘導区域等については、他都市に隣接している地域の人は生活圏が同じなので、他都市の意見を反映していくのか。

●事務局

今の状態では、まだ分析が終わっていないので、具体的な話は出来ないが、都市計画マスタープラン、立地適正化計画両方とも、都市計画上この上位にある室蘭、伊達、登別で構成される、室蘭圏の都市計画区域マスタープランとの整合を図るように定められている。よって、圏域のなかで、どのようにしていくのかの調整をして、十分な検討をしていきたいと思っている。